

板橋区児童福祉審議会第2回本委員会 会議概要及び議事要旨

会 議 名	令和6年度板橋区児童福祉審議会 第2回本委員会
開 催 日 時	令和7年1月9日（木） 午後1時30分から午後3時00分まで
開 催 場 所	板橋区役所本庁舎南館 4階災害対策室A・B
出 席 者	<p>〔委員〕 松原康雄 栗原直樹 坂井隆之 森和子 神山八弓 馬場望 税所純敬 佐賀豪 堀科 安藤建治 根本えりか 茂呂大輔</p> <p>〔区側出席者〕 板橋区長（答申からのご出席） 子ども家庭部長 子ども家庭総合支援センター所長 保育運営課長 支援課長 援助課長 保護課長 子ども専門相談担当課長</p> <p>〔事務局〕 子ども政策課長 児童養護推進係長、副係長、担当</p>
会議の公開（傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u> 部分公開（部分傍聴できる） 非公開（傍聴できない）
傍 聴 者 数	0人
議 題	<p><開会></p> <p>1 議事 （1）板橋区社会的養育推進計画の策定について（答申案）</p> <p>2 報告 （1）令和6年度の各部会の開催状況について ・里親部会 ・子どもの権利擁護部会 ・死亡・重大事例等検証部会 ・保育部会 （2）令和6年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について （3）その他</p> <p>3 答申 4 区長挨拶</p> <p><閉会></p>
配 布 資 料	<p>資料1 板橋区社会的養育推進計画の策定について 資料2 令和6年度里親部会の開催状況について 資料3 令和6年度子どもの権利擁護部会の開催状況について 資料4 令和6年度死亡・重大事例等検証部会の開催状況について 資料5 令和6年度保育部会の開催状況について 資料6 令和6年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について 資料7 子ども家庭総合支援センターの機能と成果</p> <p>参考資料1 板橋区児童福祉審議会委員名簿（第2期） 参考資料2 板橋区児童福祉審議会 区関係部課長及び事務局名簿</p>
所 管 課	子ども家庭部 子ども政策課 児童養護推進係 （電話3579—2454）

会議概要

委員長	<p>それでは、定刻になりましたので、令和6年度板橋区児童福祉審議会第2回本委員会を開会いたします。新年早々、お集まりいただきまして、ありがとうございます。司会進行は、私、松原が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。12月31日の次の日が1月1日というだけに過ぎないのですが、とはいえ、年末年始の慌ただしさ、それから、高揚感みたいなものは、毎年感じられます。そういった中で、子育ての悩みを抱える方、施設等に住んでいる子どもたちがいることには変わりがないと思います。本日の議題になっている社会的養育推進計画については、そのような子どもたちや子育て中の親たちをどう支援していくかを考えたものになります。報告の中に出てくるかと思いますが、当事者の意見もお聞きすることができました。本日、皆さんの最終確認を経て、区長の方に答申案として出したいと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。それでは、本日の出席状況と資料確認、議事の流れについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
子ども政策課長	<p>それでは、皆様、改めまして明けましておめでとうございます。子ども政策課長の吉田でございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。まず、委員の出席の状況でございますが、お一人ちょっと遅れていらっしゃいますので、欠席者4名の予定でございます。半数以上のご出席をいただいておりますので、定足数に達していることをご報告いたします。それから、委員名簿と座席表につきましては、机上に配付してございますので、ご覧いただければと思います。区側の出席者につきましても、参考資料2として名簿をお配りしてございますので、そちらをご覧いただければと思います。次に、本日の審議会は、公開でございますが、残念ながら傍聴の方はいらっしゃらない状況でございます。また、本日は、議事録を作成いたしますので、録音をさせていただきます。ご承知おきください。発言者のお名前と非公開事項が含まれる内容を除きまして、委員の皆様にご確認いただいた後、会議資料とあわせて、区ホームページにて公開させていただきます。ご発言にあたりましては、事務局職員からマイクをお渡しいたしますので、マイクを使用して発言いただきますようご協力をお願いいたします。それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">(資料確認)</p> <p>お手元の資料で不足しているものはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。次に、本日の議事の流れでございますが、第1回目の本委員会が7月にございまして、そのときに臨時部会を設置することをご了承いただきました。その臨時部会で検討して参りました「社会的養育推進計画(答申案)」について、まず、議題として、ご審議をいただきたいと思います。続いて、令和6年度の各部会の開催状況について、各部会の部会長様より、ご報告をいただきます。続いて、子ども家庭総合支援センターの運営状況等について、区の方から報告させていただきます。最後に、本日ご審議いただく「社会的養育推進計画」について、区長がその頃参りますので、委員長から区長の方に答申いただく流れを予定してございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、よろしくお願いいたします。事務局のご説明にあったように、まず、議事(1)「板橋区社会的養育推進計画の策定について」、お諮りをしたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。</p>
子ども政策課長	<p>それでは、引き続き、私からご説明いたします。資料1「板橋区社会的養育推進計画の策定について」をご覧いただければと思います。項番1の要旨でございます。7月11日の児童福祉審議会にて、区長から「板橋区社会的養育推進計画の策定について」の諮問を受けまして、臨時の部会を設置し、検討を進めて参りました。今般、パブリックコメントの募集や当事者ヒアリングなどを経て、臨時部会において答申案を取りまとめましたので、ご報告するものでございます。項番2の答申の内容でございます。(1)の答申書案でございますが、右上に資料1-①と書いてある資料</p>

になります。こちらは鏡文となっております、松原委員長のお名前で、坂本区長に答申をしていただきます。計画書の中身につきましては、次の（２）になりますが、その前に裏面をご覧くださいと思います。参考としまして、検討体制を記載しております、策定に至るまでの経緯を記載してございます。こちらは、前回、お話をさせていただいておりますので、説明は省略させていただきますが、臨時部会を５回開催いたしまして、検討を重ねて参りました。検討にあたりましては、児童養護施設や里親家庭へのアンケート調査のほか、子どもたちにもヒアリングを行うなど、幅広く意見をくみ取りながら、策定を進めて参りました。臨時部会の構成につきましては、下の表の通りでございます。この本委員会以外のメンバーとして、社会的養育経験者でもある川瀬委員、民生・児童委員の島田委員や中道委員、それから施設の現場からということで、児童養護施設の西松委員の４名の方に、臨時の委員として加わっていただき、様々なご意見をいただいて、取りまとめをしてきたところでございます。それでは、計画答申の中身につきまして、ポイントを絞って説明させていただきたいと思います。右上に資料１－②と書かれた「板橋区社会的養育推進計画（案）」をご覧くださいと思います。ちょっと量が多いのですが、下にページ番号を振っております。まずは、３ページをお開きいただけますでしょうか。項番１「基本的な考え方」の（１）「計画の趣旨」でございますが、下から２段落目のところをご覧くださいと思います。国の方から、令和６年度末（今年度末）までに、各自治体において社会的養育に関する新たな計画を策定することを内容とした通知が発出されております。そのため、板橋区においても、児童相談所設置市となってございますので、令和７年度を始期とする社会的養育推進計画を初めて策定することにいたしました。東京都においても計画を策定いたしますので、整合を図りながら、東京都とは別に、区独自の計画を策定することに至った経緯を記載してございます。次に、４ページをご覧くださいと思います。（２）「計画の位置づけ・計画期間」でございます。令和７年度からの５年間ということで、国の方からも、この５年で作るよう通知が出ているところでございます。次に、５ページをご覧くださいと思います。検討にあたりまして、まずは現況ということで、項番２「社会的養育を取り巻く区の現況と子ども数等推計」の（１）「人口等」でございます。１８歳未満人口及び合計特殊出生率の推移が、図表を見ていただくとわかるかと思いますが、①②の通り、板橋区の場合、減少傾向にあります。これをもとに、次の６ページの③が児童人口の推計になっております。令和７年以降の推計におきましても、この減少傾向は続くものと予測されております。次に、７ページをご覧くださいと思います。社会的養護のもとで育つ板橋区の子どもの数でございますが、令和６年３月末日現在で、下の表にもありますが、１７９人という現状でございます。次に、８ページをご覧くださいと思います。里親等の状況ですが、養育家庭の登録数が２８家庭、委託児童数は１６人でございます。その他、様々な現況の数字等々については、次のページからずっと続くわけですが、こちらについては、ちょっと説明の方は省略いたしますが、２３ページまで、概要や数字をまとめておりますので、ご確認くださいと思います。次に、２６ページまでお進みいただいてよろしいでしょうか。真ん中辺りに④「代替養育を必要とする子どもの数の推計結果」がございます。１８歳未満人口の推計は、先ほど減少傾向と説明いたしました、社会的養育の現況等を踏まえまして、計画期間中５年間の間に代替養育を必要とする子どもの数を推計してございます。ご覧いただく通り、５年後には児童人口が減少する一方で、代替養育を必要とする子どもが２２０人に増える見込みとなりました。子どもの数は減りますが、支援を必要とする子どもは、増えていくということでございます。次に、２７ページにお進みください。里親等への委託率につきましては、国の方では、高い目標を掲げております。原則、乳幼児７５％以上、学童期以降５０％以上と国の目標が書いてありますが、区としましては、現状の１２．３％といった状況を踏まえ検討した結果、令和１１年度に３８．６％とする見込みといたしました。３８．６％とするためには、約１００家庭の里親登録をめざすとして、計画させていただいたところでございます。現在が５３家庭なので、倍近く里親を増やしていかなければいけないという状況でございます。それでは、３０ページまでお進みいた

<p>委員長</p>	<p>だけですでしょうか。こうした現状と推計の結果を踏まえまして、社会的養育を板橋区が推進していくにあたり、基本理念と目標を設定いたしました。記載にあります通り、3つにまとめてございます。真ん中辺りの基本目標をご覧ください。1つ目が「子どもの意見表明を支援し、権利を守るとともに、声を最大限尊重します」、2つ目が「予防と早期発見による家庭維持と一時保護等による安心・安全を実現します」、3つ目が「代替養育において家庭と同様の養育環境を整えるとともに、社会的自立を支援します」として、3つに整理させていただいたところです。次のページをご覧ください。このページ以降が、具体的な施策と主な取組を掲げまして、かつ、それらを評価するための指標を設定してございます。この31ページにある項番4「子どもの権利擁護の取組の充実」のほか、施策としまして、8つに整理してございます。最後の8つ目が59ページにございまして、項番11「児童相談所における人材確保・育成に向けた取組」となっております。各施策につきまして、主な取組と取り組むにあたっての評価のための指標を、それぞれ整理させていただいております。ちょっとページ数もございますので、1つ1つの説明は省略させていただきますが、臨時部会の委員の皆様には、それぞれにご意見等をいただきまして、可能な限り反映に努めたところでございます。こちらにつきましては、後ほどご覧いただければと思います。66ページまでお進みいただければと思います。項番15「社会的養育に関するアンケート及びヒアリング結果概要」でございます。今回、この答申案の内容を検討するにあたりまして、多くの子どもたちや関係者の皆様にアンケートとヒアリングにご協力をいただきました。ご協力いただいた方々の人数等は、記載の通りとなっております。次の67ページから最後のページまでは、いただいたご意見やアンケートの結果について、たくさん掲載して欲しいというご意見をいただいております、できる限り掲載させていただきました。しかし、これ以上に、自由記述でたくさんの意見をいただいております。部会の委員でいらっしゃる方々には、すべて見ていただきましたが、本当にたくさんのご意見をいただきました。板橋区には3つの児童養護施設しかありませんので、個人や施設が特定される恐れのある記述については、公表には適さないとして、こちらには記載してございませんが、そういったものも、部会では非公開資料として、そのまま見ていただきまして、検討の参考にしたところであります。なお、いただいた意見につきましては、可能な範囲で、反映に努めまして、今回の案にまとめさせていただいたところでございます。こちら、非常にたくさん内容でございますので、後ほどご覧いただければと思います。それでは、最後に、資料1-③をご覧ください。こちらにつきましては、先ほどのものは、この審議会での答申でございますが、その答申を受けて、区の方が計画にした形の概要版でございます。区の方では、社会的養育推進計画と関連性の深い「子ども・子育て支援事業計画」、こちらも法定計画になりますが、一体で策定するという方針でございます。この概要の裏面をご覧ください。2ページ目の左下に、第3章「社会的養育推進計画」編とありますが、こちらに、先ほどの本審議会からの答申内容を入れ込んでございます。この左下から右上に上がって、右下までの内容が、答申内容の概要版としてもご覧いただけるかと思います。簡単にご覧いただきたい場合は、この資料もご活用いただければと思います。なお、右下の方に、この答申の内容とは直接関係はないのですが、8月に試行開催いたしました「こどもワークショップ」の内容も参考に掲載してございます。計画をテーマとして、ワークショップをやったわけではございませんが、子どもの声を聞く機会の1つとして、区の方も試行錯誤しているところでございます。あくまで、参考程度でいただければ幸いです。長くなりましたけれども、答申についての説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。それでは、我々の審議会の副委員長でもあり、臨時部会では部会長として、取りまとめにご尽力いただきました栗原副委員長の方から、補足コメントをお願いしたいと思います。</p>
------------	--

副委員長	<p>臨時部会において部会長を務めさせていただきました栗原です。補足というより、全体的な様子になりますが、説明があったように、昨年7月の第1回本委員会におきまして、区からの諮問を受けたということで、臨時部会を設置して、検討していくことが決定されました。これまでに5回の会議を開催して、子どもたちや里親・施設職員などへのアンケートやヒアリングを実施しながら、議論を尽くして参りました。事務局には、可能な限り、我々の意見を答申案に盛り込んでいただきました。よくまとまったものだという感想を持っております。できれば、この案でご了承いただきまして、審議会の最後には、松原委員長から区長さんに対しまして、答申をお願いできればと思っております。私の方からは以上でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。私もオブザーバーという形で、臨時部会に参加しておりました。当初はどうなるかなと思っていたのですが、委員の方のご熱心な議論、事務局の努力がありまして、よくまとまったものになったと思っております。私もこの線で、区長の方に答申をしたいと思っております。とはいえ、膨大な資料になります。それから、委員の中には、今日初めて、この計画案をご覧になられた方もいらっしゃると思いますので、お気づきの点や確認したい点などがありましたら、受けたいと思います。よろしく願いいたします。もし、修正等が必要になりましたら、後日、事務局で検討の上、対応していただくこととなりますが、そこまでの変更がなければ、区長の方に答申をさせていただきたいと思っておりますので、ご了承いただければ幸いです。それでは、何かご意見・ご質問等があれば、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>それでは、幾つか数字がこれから足される部分もあるかと思いますが、計画全体を動かすようなものではないと判断をしております。何かあれば、私と事務局の方に一任をしていただきますが、今日の時点でそれもないということですので、区長の方にこの内容で答申をさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>ありがとうございます。次第3の報告事項の方に移らせていただきます。よろしいでしょうか。まず、報告事項(1)「令和6年度の各部会の開催状況について」になります。各部会長より順番にご報告をいただいて、ご意見・ご質問については、全体の報告が終わった後にまとめて伺うということで、お願いをしたいと思います。それでは、里親部会からご報告をお願いいたします。</p>
坂井委員	<p>里親部会、部会長の坂井です。よろしく願いいたします。資料2「令和6年度里親部会の開催状況について」報告させていただきます。里親部会の所掌事項は、項番の1にあります通り、①②③とありますが、区が里親を認定する際に、区から諮問を受けて審議し、その結果を答申する部会です。項番2の開催状況ですが、第1回目を5月31日に開催したところです。年3回の開催を予定しておりましたが、9月に予定しておりました第2回は、審議の案件がなかったということで、開催いたしませんでした。今年度は、あと1回、今月28日の開催を予定しております。(2)の審議件数ですが、区から諮問を受けた件数は、1月9日現在でご覧の通りです。養子縁組を目的とせず、子どもを一定期間預かって養育する養育家庭が2件、養子縁組を目的として、子どもを養育する養子縁組里親が3件となっております。なお、板橋区では、養育家庭と養子縁組里親と二重登録を認める運用をしております。二重登録の際は、それぞれ1件ずつ計上しています。今回は、家の数でいうと、1つのお家が二重登録になっておりますので、件数とすれば、2件と3件ですが、家の数としては、4件となります。審議しましたこの4件すべて、里親としての認定が適格であるという審議結果となっております。審議にあたりましては、委員がそれぞれの専門性に基づきまして、申請についての動機や委託児童の養育についての考え方等について確認をしながら、子どもを委託する場合の留意点などについてのご意見をいただいて、このような審議結果となっております。本日の議事にあります通り、昨年7月以降、社会的養育推進計画の策定に向けて、里親等の委託の推</p>

	<p>進に向けた取組についても、ご検討いただいたところです。板橋区では、里親委託の推進に向けて、里親と子どもの適切なマッチングをするために、里親家庭そのものを増やしていくことが重要と考えており、例えば、区立の小・中学校へ通う児童の保護者へのチラシ配布とか、子育て世帯が多い地域へのポスティング、区民まつりやわくわくフェスタへの出展など、フォスタリング機関と連携しながら、広報啓発活動を積極的に行っていくとしております。そうした広報啓発活動というのは、里親を増やすためだけではなく、制度を知ってもらうことで、里親とそこで暮らしている子どもにとって生活しやすい環境になるという点からも、重要であると考えております。部会としましては、子どもにとって適切な養育環境を提供できますように、今後も引き続き慎重な審議に努めて参ります。報告は以上でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。続いて、子どもの権利擁護部会について、ご報告をお願いいたします。</p>
副委員長	<p>子どもの権利擁護部会、部会長の栗原です。「令和6年度子どもの権利擁護部会の開催状況について」でございます。資料3でございます。子ども権利擁護部会の所掌事項は、項番1の通り、児童またはその保護者の意向が児童相談所の措置と一致しない場合などに、区から諮問を受けて審議し、その結果を答申する部会でございます。項番2の開催状況ですが、今年度につきましては、本日まで4回開催したところでございます。当初は、月1回の開催予定でしたが、審議する案件や事例がないということで、5回流会となっております。次に、審議件数でございますが、1件となっております。こちらについては、7月の本委員会で事務局より報告をいただいた児童福祉審議会への子ども本人からの申立てについての議論となっております。次に、被措置児童等虐待の状況報告でございます。項番1の所掌事項にもある通り、被措置児童等虐待に係る措置について報告を受けた際、その措置について意見を述べるができることとされております。資料の裏面をご覧ください。今年度は、受理件数が3件となっております。板橋区に被措置児童等虐待通告が入った案件となっております。調査の結果、虐待非該当と判断したものが1件、2件は現在調査中となっております。なお、区では、虐待の事実が確認できなかったとして非該当とした案件につきましても、部会委員の意見を踏まえ、助言等を行ったと聞いております。いずれにしましても、子どもが自ら声をあげられるようにするためには、その権利や権利擁護の仕組みについて、様々な機会を通じて、周知啓発を行うとともに、子どもが安心して意見を述べるができる環境を整えることが必要だと考えております。また、子どもの最善の利益を確保するためには、権利擁護部会の役割は非常に重要であると思っておりますので、引き続き、部会としても尽力して参りたいと思います。報告は以上でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。続きまして、「令和6年度死亡・重大事例等検証部会の開催状況について」の報告になりますが、私が部会長を兼ねておりますので、私から報告させていただきます。資料4をご覧ください。死亡・重大事例等検証部会の所掌事項は、項番1の通りになります。区から報告を受けた児童虐待事例や保育施設等での重大事故について、事例の問題点や課題を踏まえ、再発防止のための提言をまとめて報告する部会になります。項番2が開催状況になります。令和6年度は、これに該当する事例はなかったのですが、振り返ることで再発防止に繋がる教訓が得られる事例について、事例検証を行って、再発防止のための提言をまとめた関係機関向けの報告書を作成しております。その内容は、令和4年度に発生した事例（父・子一人世帯。母に精神疾患あり。母は父の育児支援が得られないなど、育児に悩むものの、行政機関の関与や助言に拒否的で、子に対し傷害事件を起こした事例）について、令和5年度に事例検証を行い、令和6年度に事例から明らかになった課題に対する提言をまとめ、区に報告をいたしました。こちらについては、資料4の別紙として、概要版がついておりますので、お読みいただければと思います。なお、板橋の場合には、東京都や国と異なり、管轄区域が狭いということで、個人が特定</p>

	<p>されないような形で概要版を公表するというにしていますので、概要版のみの配付とさせていただきます。それから、令和5年度に発生した事例（重篤に陥った要因が、事故、内因の可能性もあるが、児童虐待の可能性も臨床的に疑われる事例）については、現在、児童相談所が収集・整理した情報や関係機関からヒアリング結果をもとにして、なぜ事例が発生してしまったのか、事例が発生した背景、対応方法、関係機関の連携等の問題点や課題を抽出し、最終的には、その解決に向けた対策を提言することになっており、作業中でございます。こちらについては、事例の内容、子どもの状況等を総合的に考慮しながら、今後も検討を進めていく予定でございます。報告書にも記載をいたしましたが、妊娠期からの相談体制の充実というのは、児童虐待の発生予防には特に重要であって、板橋区においては、妊娠期から切れ目のない支援の更なる充実を求めるとともに、地域の関係機関とも情報共有、連携をしながら、地域全体で児童虐待等の予防に取り組んでいただければと思います。痛ましい児童虐待事例が繰り返されることのないように、この報告書を今後の支援に役立てていただければと考えております。報告は以上でございます。続いて、保育部会について、ご報告をお願いいたします。</p>
堀委員	<p>保育部会、部会長の堀でございます。「令和6年度保育部会の開催状況について」報告させていただきます。資料5をご覧ください。保育部会の所掌事項は、項番1の通り、区が保育所等の認可などをする際に、区から諮問を受けて審議し、その結果を答申する部会でございます。項番2の開催状況ですが、(1)にあります通り、今年度は、9月に第1回保育部会を開催しており、また、今月20日に第2回保育部会、3月に第3回保育部会の開催を予定しております。次に、審議件数ですが、(2)にあります通り、区から諮問を受けた件数は、合計4件です。保育所の整備を着手する前に認可基準への適合状況について確認する計画承認が2件、開所前に再度認可基準への適合状況を確認する認可が2件となっております。保育部会では、事務局から、施設の図面や公認会計士による財務状況などの分析に基づく説明を受けまして、子どもたちが使いやすい設計になっているか、安全上問題となる点がないかなど、部会で審議を行った結果、すべての案件について、適当であると答申いたしました。なお、部会の所掌事項に、児童福祉施設や認可外保育施設、幼保連携型認定こども園に対する事業停止命令などがございますが、こちらに関する案件はございませんでした。審議にあたりましては、学識経験者、弁護士、公認会計士、建築士といった委員が、それぞれの専門性に基づき、児童及び職員の動線や避難経路などのハード面のほか、児童の安全確保や職員体制などの運用面に関する観点から、色々と意見を述べさせていただきました、このような審議結果となっております。昨今、保育をめぐる状況は、色々変わっているところではございますが、近年取り組んできた待機児童問題というのが、ほぼ解消されつつあります。今後は、保育の質がより一層問われることになってくる一方、保育者の不足ということが言われております。先般、保育士の配置基準が一部改正されましたが、保育者の採用には、多くの園が苦勞しておりまして、認可保育所のスタート時点というのは、子どもの数と収支のバランスも見つめながら確保するため、更に難しい点がございます。しかしながら、保育者の数は、子どもの安全に欠かせないものだと言えます。子どもの安全性に配慮した人的環境を整えることは、保護者の安心に繋がるだけでなく、そこで働く保育者の先生方の業務負担を減らすことができますし、より質の高い保育に繋がると考えております。そういった観点からも、ぜひ丁寧に運営をして欲しいということを踏まえて、委員それぞれの立場からのご意見をいただきまして、子どもたちが健やかで安全・安心に成長できる環境を提供できるよう、保育部会としても、引き続き、審議を行って参ります。報告は以上でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。ここまで4つの部会について、各部会長よりご報告をいただきました。各部会について、ご意見・ご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p>

<p>子ども家庭総合支援センター所長</p>	<p>それでは、報告事項（１）については、以上とさせていただきます。続きまして、報告事項（２）「令和６年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について」、所管課からご報告をお願いいたします。</p> <p>子ども家庭総合支援センター所長の佐々木です。委員の皆様には、日頃より、当センターの運営に、多大なご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。センターから報告をさせていただきます。着座にて失礼いたします。資料６「令和６年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況」につきましては、令和６年度の４月から１０月までの相談件数等をまとめたものでございます。こちらにつきましては、途中経過ですので、ご説明の方は省略させていただきますが、もし何かあれば、後ほどご質問をいただければと思います。今年度の特徴の１つとして、令和４年度、５年度には１度も行うことがなかった立入調査を、４回実施いたしました。４人のお子さんの安全確認を行ったということがございます。本日は、子どもの安全確認ができない場合の立入調査について、報告をさせていただければと思います。</p> <p style="text-align: center;">（ケース事例の報告）</p> <p>受容とか傾聴、寄り添いといったことを信条とする福祉に携わる職員にとっては、立入調査のような対応は、どちらかという得意ではないと思います。しかし、子どもの安全確認や安全確保ができない場合の対応として、必要な場合には、今後も、躊躇することなく、立入調査を実施していきたいと考えています。また、昨年１１月には、当センターにおいて、区内の３警察署と合同で立入調査と臨検捜索の実践訓練を行いました。毎年、都道府県レベルでは、全国各地でこうした訓練が実施されていると思いますが、基礎自治体単独でこういった訓練を実施したというのは珍しいのではないかと思います。今後も、警察をはじめ、関係機関と連携して、子どもたちの安全・安心のために、様々な取組を進めていきたいと考えております。続きまして、本日は、昨年１２月に高松市で開催されました日本子ども虐待防止学会において、当センターの取組について発表した内容の一部につきまして、支援課長の清水から報告をさせていただきます。</p>
<p>支援課長</p>	<p>支援課長の清水です。よろしくお願いいたします。説明の方は、着座にて行わせていただきたいと思います。右上に資料７と書いてあるＡ４横の資料の方をご覧ください。こちらの内容ですが、先ほど所長の佐々木からございました通り、昨年の１１月末から１２月にかけて行われました日本子ども虐待防止学会におきまして、ポスター掲示という形で貼らせていただいて、その後、短い時間ではありますが、発表をさせていただいたときに用いた資料になります。ポスター用に作っていますので、やや説明が多い資料になってしまっている点については、ご了承いただければと思います。それでは、１枚おめくりください。こちらは、改めて確認という内容ではありますが、板橋区子ども家庭総合支援センターは、令和４年に施設の方を開設しまして、７月から児童相談所設置市に移行いたしました。現在３年目を迎えております。今回の内容につきましても、この３年目を迎えるにあたって、開設以降、取り組んできた内容について、区の特色や成果というところを中心に報告させていただいた内容になっております。区の特色としまして、組織図がございましたが、板橋区子ども家庭総合支援センター所長である佐々木が児童相談所長にあたりまして、その下の組織として、支援課、援助課、保護課と３課ございまして、その下に法務担当課長と子ども専門相談担当課長といった形の組織になっています。今、特別区においては、児童相談所の設置が進んでいるところでありますが、大きく２つのパターンがあります。１つは、板橋区のように、こども家庭センター機能を担う支援課と児童相談所機能を担う援助課を１つの組織として設置をする区になります。もう１つは、こども家庭センター機能と児童相談所機能を別々の組織として、建物も別とする形で設置するといったパターンがございます。板橋区は、１つの組織として、一体的に運営をするとしておりますが、今の傾向としては、一体的な組織の方が少ない状況になっていて、多くの区においては、それぞれ別の組織として作っている</p>

というところがございます。

次のページをご覧ください。そういった一体的運営によるメリット、機能と成果について、ご説明させていただきます。大きく3点ございまして、1点目は、一体的な運営による機能と成果になります。資料としては、相談・通告の受付から受理までの流れというものを記載させていただいております。センターにおいては、相談の内容、虐待の通告、子育て相談にかかわらず、区民向けには支援課の窓口をご案内しております。また、学校や医療機関、保育園といった関係機関からの相談・通告窓口は援助課として、わかりやすく分けております。入口は分けているのですが、どの相談内容についても、真ん中に記載のある緊急（臨時）受理会議ということで、所長、管理職、各課担当係長、担当者等、両課の職員が参加をして、協議の上、所長が決定をするという形をとっております。3つある丸の一番下をご覧ください。この初期対応の協議した方針によって、対応課を協議して決定することになります。なので、ケースの内容やリスクによって、支援的に入るのか、介入的に入るべきなのか、そういった方針によって、担当の課を決めております。支援的な対応が必要であれば支援課が対応して、介入的な対応が必要であれば援助課が対応していくといった形で役割を分けております。その結果、どういう変化が起きたかというのが、その下でございます。特に、支援課（こども家庭センター）の相談対応に、大きな変化が見られたと感じております。開設前になりますが、当時は子ども家庭支援センターという名前で行っていましたが、相談ケースの中で虐待対応が大きな割合を占めていて、養育困難の相談より虐待対応を優先するような状況が続いておりました。開設後については、支援課においては、虐待対応ではなく、養育困難の相談等の支援件数が、大きく増えているというところがございます。右側の表が件数の推移になっており、グラフの左側が令和3年の開設前になりますが、四角の太枠で囲っているところが、児童虐待の相談になりますが、当時は1,058件、その上の養育困難の相談が585件だったのが、開設以降、令和4年、5年と、児童虐待の対応件数は大きく減っていきまして、令和5年につきましては、117件という件数になっております。その結果、どういったことが起こったのかについて、表の左側に記載してございます。児童虐待相談対応を援助課が中心に担うことで、支援課は養育困難等の相談対応が増加しているとしており、支援課・援助課の役割分担がより明確になったというところが大きいのかなと考えております。次のページをご覧ください。引き続き、一体的運営の機能の成果になりますが、児童虐待通告で特に一時保護が必要なケースが、非常にスピーディーな対応ができるようになったという内容になります。上と下が対比になっていますが、先に下の開設以前の流れのところをご覧ください。開設以前については、区民や関係機関から児童虐待の通告が入りますと、まず、板橋区が一義的には受け付けることになります。板橋区の当時は子家セン（子ども家庭支援センター）が受け付けて、緊急受理会議を行い、子どもの安全確認等を行って、一時保護が必要だという場合には、東京都に対して、援助要請を行います。そうしますと、当時の管轄である北児童相談所が、それを受けて、緊急受理会議を行い、更に北児童相談所職員が安全確認等を行って、一時保護の決定となります。その後、一時保護所の調整を行って、入所といった流れになっていました。開設後については、現在の流れにあります通り、支援課・援助課のいずれで受けても、1つの組織として、緊急受理会議を行って、初期方針を固めて対応していきますので、その分の時間が大きく短縮されたところでございます。右側の時間短縮という大きな矢印から出ている吹き出しをご覧ください。初動から一時保護までを迅速化したことで、子どもの速やかな安全確保とともに、待っている子どもの負担というものも大きく軽減されたのかなと思います。学校から通告があると、その間、子どももずっと教室とかで、不安な様子で、我々職員が来るのを待っていたり、対応方針が決まるまで待っているということがあったのですが、そういったものも大きく減ったのかなと思います。

次のページをご覧ください。2点目は、要対協（要保護児童対策地域協議会）の専属組織の機能と成果の説明になります。我々の組織の大きな特色の1つとして、地域連携推進係という、要対協を専属で対応する組織を支援課に配置しております。

8名の職員を配置しております、この中に児童福祉司の任用資格を持つ職員を4名配置しております。直接的な相談業務を担わずに、要対協（関係機関）との調整や、要対協の会議運営を専属で行っております。その中で、左側にごさいますが、集合型の実務者会議や、アウトリーチ型の実務者会議を従来になく取組として行っております。こちらは、370 機関を個別に訪問して、各機関の管理職等からヒアリングや相談を行って、気になるお子さんや家庭等の情報を聞いて、通告の判断基準や見守りの方法等を助言しております。また、関係機関向けに配布している児童虐待防止対応ガイドラインの説明を行い、関係機関がどういった判断で、我々の方に通告・相談できるのかという支援を行っているところでございまして。右側に年間スケジュールがありますが、このアウトリーチ型と集合型を交互に年2回ずつ実施しているというところで、1年間かけて370 機関ではなく、ワンシーズンで370 機関を回るとし、それを2回繰り返すということを行っております。次のページをご覧くださいと、具体的なイメージをポスターセッションで書かせていただいております。右側の真ん中に、新規児童数の推移がございまして。我々が受理はしていないのですが、ちょっと心配なお子さんがいるという情報が、令和4年度は後期で130件、令和5年度については、前期で179件、後期で249件の相談をお受けして、それぞれに対して、直ぐに繋ぐべき案件であれば、速やかに通告をするように促すとか、どういう状況になったときに通告をすべきといった助言等を行いました。一番下にごさいますが、そういった取組を通じて、関係機関の児童虐待等への感度を高めることで、国からも再三求められている早期発見というところの取組を強化するとともに、心配な子ども・家庭を我々のところに繋げる早期対応の仕組みを具現化しているという形になります。

次のページをご覧ください。最後の3点目は、ユニット形式による機能と成果の説明になります。こちらは、一時保護所の部分になります。板橋区の一時保護所につきましては、定員30名で、一番大きな特色としては、ユニット制というところで。左上の表にごさいますが、6名定員のユニットを計5つ設けております。板橋区一時保護所の主な特徴になりますが、ユニット制の強みを生かしまして、食事なども大きな食堂ではなく、各ユニットの中で、家族単位での食事としています。また、ポータブルゲーム機（任天堂スイッチ）を2台設置して、子どもたちが順番を決めて、1人1時間、休日は2時間できるようにしています。あとは、個室にテレビを置いているのですが、そこに録画機能のあるハードディスクを設置して、夜の10時以降の番組は見ることはできないのですが、見たい番組を録画して、休日等に好きに見ることができるようにしました。開設準備期には、ルールが守れないのではないかと不安もあったのですが、こういう代替手段をとってみると、子どもたちも非常に素直に応じてくれています。ゲームについても喧嘩をすることなく、話し合ってルールを決めていく中で、子どもたちも素直にルールを守りながら、やってくれるという、子どもの強みというものも感じ取れるような取組になっております。また、右側にありますが、権利擁護の仕組みとして、アドボケイトさんに毎週来ていただいて、子どもと話をするような機会の確保に取り組んでおります。こういった取組を通じて、ユニット形式による家庭的な生活環境、子どもの気持ちに寄り添った運営によって、様々な背景や課題のある子どもたちですが、多くの子が非常に落ち着いて生活ができているなど実感しているところでございまして。

次のページをご覧ください。機能と成果のまとめになっております。逆三角形の図がございまして、先ほどの繰り返しになりますが、開設前につきましては、板橋区においても、本来は児童相談所機能が担うような3次予防（児童虐待対応）の方に、大きくリソースを割かれてしまっていたというところがございます。開設後につきましては、支援課・援助課の役割分担が、2次予防、3次予防でバランスよくとれるようになりました。あとは、支援課に要対協の専属組織を作ったことで、1次予防の強化にも取り組めるようになったというところが大きいかなと思っております。一番下にごさいますが、こういった一体的運用によって、役割分担が最適化され、児童虐待等に至る前の予防・未然防止から、早期発見・早期対応、迅速な安全確保まで、区において一元的な対応ができるようになったというところが、やはり

	大きな成果なのかなと考えております。今後は、これらを担う人材育成や関係機関による見守り機能の更なる強化というところが、課題であるのかなと考えております。説明の方は以上となります。
委員長	ありがとうございました。それでは、ご意見・ご質問等がございましたら、お願いいたします。
委員	資料6の一時保護になりますが、一時保護委託で他区の一時保護所をお願いしたという記載はありますが、逆はどうでしょうか。他の区のお子さんを板橋区が受けたという案件は、あるのでしょうか。
保護課長	保護課長の高木でございます。今のご質問の保護所に関するところですので、私の方からお答えさせていただきます。令和6年度につきましては、他区から一時保護でお預かりしている件数としましては、12月末現在では6件でございます。
委員	その6件については、この数字の中に入っているのでしょうか。
保護課長	この数字の中には入っておりません。こちらは、一時保護を板橋区の方として決定した件数でございますので、こちらにある一時保護委託の方は、他区の一時保護所にお預けした件数になっております。
委員	そうすると、一時保護所の運営として、他区から預かった子どもの数は、外には出てこないということでしょうか。
保護課長	こちらの数字の方には、板橋区が一時保護として決定した件数を掲載させていただいておりますので、その数字は入っていないところでございます
委員	そうすると、0件だったり、20件だったりしても、こういった報告には、上がってこないということでしょうか。
保護課長	一時保護所の運営状況として記載する場合には、今ご指摘いただいたような他区のお子さんを何人お預かりしたというところを記載しておりますが、この資料に関しましては、板橋区が決定した件数のみの記載になっています。
委員	わかりました。現場の一時保護所の大変さを、こういう場面でも表現していただくといいのかなと思いました。
保護課長	承知しました。ありがとうございます。今後の資料づくりに生かして参ります。
委員長	よろしくご検討ください。他はよろしいでしょうか。
委員	実態をお伺いしたいのですが、アドボケイトの取組ということで、毎週6～8人の方がいらっしゃって、子どもたちと交流して、子どもが希望した場合に、話せる時間を作るということですが、実際はどれくらいの割合で子どもたちから意見が上ってくるのでしょうか。
保護課長	一時保護所に関するところですので、私の方からお答えさせていただきます。アドボケイトさんに毎週土曜日来ていただいているところにつきましては、具体的に申し上げますと、12時半から2時半ぐらいまでは、先ほどお話しさせていただきましたユニットの方に入りまして、生活のところと一緒に入っていただいて、子どもたちと話をしているというところでございます。このほかに、今お話しいただきましたように、個別的な面談といいますか、そこで子どもから希望があった場合に、面談を

	<p>行っておりますが、毎回数件程度、子どもの方から希望が上がっているというところでございます。週によって変動がございますので、0件のときもあれば、数件あるときもあるといった状況でございます。</p>
委員長	<p>他にはよろしいでしょうか。それでは、報告事項（２）については、以上とさせていただきます。続きまして、報告事項（３）「その他」になりますが、事務局から連絡事項等ございますか。</p>
子ども政策課長	<p>それでは、ここからの議事の進行の方は、私の方で務めさせていただきます。委員長、どうもありがとうございました。次回の本委員会の開催時期になりますが、来年３月頃を予定してございます。詳細につきましては、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたしますと思います。また、冒頭で申し上げましたが、本日の議事録につきましては、内容のご確認をいただくため、後日メール等を送付させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、先ほどの議題にありました社会的養育推進計画の答申に移らせていただきます。この後、坂本区長が参りますので、委員長の方からお渡しいただければと思います。恐れ入りますが、区長が参りますまで、このままちょっと休憩ということで、数分お待ちいただければと思います。</p> <p style="text-align: center;">（板橋区長入室）</p> <p>それでは、準備が整いましたので、答申の方に移らせていただきます。お手数ですが、松原委員長、坂本区長は、その場でご起立いただけますでしょうか。なお、答申書をお渡ししたときに、写真を撮影いたしますので、恐縮ではございますが、お渡しの後、そのまま写真撮影にご協力をいただければと思います。それでは、松原委員長から答申書の読み上げと手渡しの方をお願いいたします。</p>
委員長	<p>板橋区長、坂本健様。板橋区社会的養育推進計画についての答申。令和６年７月１１日付６板子政第２０４号により、板橋区児童福祉審議会に諮問された標記の件について、板橋区児童福祉審議会臨時部会を設置し、調査、審議を重ねた結果、別添「板橋区社会的養育推進計画（案）」を取りまとめましたので、答申いたします。令和７年１月９日。板橋区児童福祉審議会委員長、松原康雄。</p> <p style="text-align: center;">（答申書手交）</p>
子ども政策課長	<p>どうもありがとうございました。それでは、答申に対しまして、坂本区長よりご挨拶を申し上げます。</p>
区長	<p>皆様こんにちは。また、明けましておめでとうございます。まずは、年明けの大変お忙しい時期に、こうして本審議会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございました。また、日頃から板橋区の児童福祉行政に、並々ならぬご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。年末かちょっと声を患ってしまいまして、やっと治ってきたのですが、今日はマスクをして失礼させていただきます。さて、社会的養育推進計画におきましては、これまで東京都が策定をして、推進をしてきたところでありまして、令和４年７月に板橋区が児童相談所設置市となりまして、今回初めて、区として独自に策定する決断をさせていただきました。策定にあたりましては、昨年７月に、私から本審議会に諮問させていただきまして、これまで半年間にわたり、臨時部会において熱心にご議論をいただいたと聞いております。お忙しい中、臨時部会の委員をお引き受けいただきました皆様に、改めて御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。今回の答申を後ほど拝見させていただきますけれども、当事者である子どもたちや里親さん、施設の職員の皆さんなど、たくさんの方々の声を聞いていただきまして、委員の皆様の専門的な知見や、地域で活動する民生・児童委員さんの意見なども踏まえて、大変貴重なご意見やご提言を取りまとめいただいたものと感じております。区といたしましては、この答申書を受けまして、これからの計画を策定して参りますが、計画は作って終わりではなくて、その後の５年間、ＰＤＣＡサイクルを機能させて、着実に推進をしていきたい</p>

<p>子ども政策課長</p>	<p>いと考えております。板橋区では、切れ目のない子育て支援の拠点として、子ども家庭総合支援センターを整備し、運営を開始して、ようやく4年目を迎えようとしております。支援を必要とする前の予防と早期の発見、そして、社会的養護と自立支援の更なる充実に向けまして、委員の皆様におかれましては、引き続き、ご助言・ご意見を賜りますように、重ねてお願い申し上げたいと思います。結びとなりますけれども、今回の答申にあたりまして、ご尽力をいただきました皆様に心から感謝を申し上げ、本日のお集まりの皆様には、児童福祉の更なる充実に向けまして、引き続きのご助言・ご協力を賜りますように、改めてお願い申し上げて、甚だ簡単でございますけれども、私からの御礼とさせていただきますと思います。長い時間にわたりまして、本当にありがとうございました。お世話になりました。</p> <p>ありがとうございました。以上をもちまして、答申を終了いたします。なお、本日の答申につきましては、本日の資料とあわせまして、区のホームページ等で公表させていただきます。それでは、以上をもちまして、令和6年度板橋区児童福祉審議会第2回本委員会を閉会させていただきます。皆様、ありがとうございました。</p>
----------------	--